

令和4年第420回信濃町議会定例会3月会議会議録（4日目）

（令和4年3月8日 午前9時45分）

●議長（佐藤武雄） おはようございます。ただ今の出席議員は12名全員であります。本日の会議を開きます。本日の議事日程は、お手元に配布のとおりであります。

日程第1、通告による一般質問を行います。

通告の6、佐藤博一議員。

- 1 町長の政治姿勢
- 2 町内の危機管理
- 3 観光政策

議席番号6番、佐藤博一議員。

◆6番（佐藤博一） おはようございます。議席番号6、佐藤博一でございます。本日は3つの質問を行いたいと思います。まず、通告のとおり町長の政治姿勢について。政治姿勢について問うという非常に大きな命題ではございますが、町長におかれましてはこういう時こそ熱く住民の方に語っていただければと思います。よろしくお願ひします。まず町長の政治姿勢、要旨としては政治姿勢と公約でございますが、町長におかれましてはご自身の任期2期目の最終年度の予算編成をされ、今年令和4年度分予算案として上程されました。もちろん政治家としての公約も掲げて、選挙戦を戦ってこられたわけですが、その公約達成のためにはまず職員の皆さんから上がってくる新年度予算案を査定されるプロセスがあり、また町長名で上程され我々が審査、審議ということになっていくわけでありまして。また公約とは、もちろん住民の皆さまと町長の約束ごとであります。当初掲げられたころとは世の中の状況が一変しました。最大はコロナウィルス感染症であるとも思います。それによりまして、役場庁舎内での職員の働き方の変化、また職員の方と住民の皆さんとの対応の変化、また町長におかれましては多々ある会議、行事、懇談会、会議はオンライン化されたりウェブ会議、行事は中止、懇談会も中止と非常に様変わりがあると思います。そんな中で公約を新年度予算にどのように、通告書では作用と変な言葉を書いてしまったんですが、通告というよりもどのように落とし込んで、これから1年実行されますでしょうか、町長の決意のほどお伺ひしたいと思ひます。

●議長（佐藤武雄） 横川町長。

■町長（横川正知） おはようございます。佐藤博一議員さんからのご質問でございます。新年度予算でもどのように対応しているかと、こういうことでございます。今、議員から公約というお話がございました。公約については1期目もそうですし、今まさに最終

令和4年第420回信濃町議会定例会3月会議会議録（4日目）

年度を迎えている2期目という段階でもそうでございますが、継続して私はそのことを胸に刻みながら町政運営に取り組んでできていると、私自身は思っております。そういう面ではいわゆる最終年度だからと言って特に予算編成の中に反映したとか、その部分もありますけれども、今までの中で着々とそのことについて対応させてきていただいていると思っております。特に今大きな前提になるのは、今の地方財政が大変厳しい状況にあるということを、行財政運営をするに当たってそのことを一番の基本に据えて対応していかなければということを、私は非常に強く感じております。そんな中で職員の皆さん方にも予算編成にあたっては、いわゆる特定財源等々の歳入もしっかり確保していただいて、様々な事業に取り組んでほしいと、こういうことも指示をさせていただいているわけでございます。そういう面では、今年どのようなことをやっているか具体的に言いますと、予算にも反映させておりますが、今年度からしますと子育ての支援金の拡充だとか、それからまさに私が、当初この立場になるにあたって最も大事な基本でありました1つは人口減少対策、これも今までの取り組みの中で、転入転出における社会動態、この辺の減少率がかなり少なくなってきたんじゃないかなと。これも今までの職員も含めて取り組みの成果かなと思っております。それから一番大きいのは病院の問題でございます。病院建設を進めますという想いで、1期目から継続して事にあたらせていただけてきております。ようやくその方向性が見えつつあるという状況の中で、具体的な段取りを進める中でそういったことについても進めていきたいということで、反映をさせていただいているということでございます。大きく私自身の心に刻んでいるのは、やっぱり行政体として信濃町というこの行政が今後もしっかりと歩み続けられる、そして町民の皆さん方が住んで良かったという町づくりを確かな方向で進めて行くというのは命題として私自身は捉えています。そんな方向でしっかりと町づくりを進めて行きたいと思っております。以上です。

●議長（佐藤武雄） 佐藤議員。

◆6番（佐藤博一） はい、この3月会議の初日で町長が挨拶されまして、その中で予算案について述べられておりました。まずは財政の健全化と、これは当然のごとく入りが大事でありまして、それから今年はゼロシーリングであったということでは聞いておりますが、予算の縮減も図りながら一番の、いろんな派手なイベント等をするわけでもなく、堅実に歩んでいこうとする姿を感じられました。また昨日までに同僚議員からも質問等がありました、コロナウィルス関連や、SDGsはありませんでしたけれど温室効果ガス等、また世界経済また最近のウクライナ問題等もかなり懸念されており、広い視野で、例えば、この田舎の信濃町であっても住民の方また我々に対しても広い視野で物事を進めているなというふうに私は前向きに評価しています。予算審査はまだこれからですけども、非常に上程されたものは受け止めております。先ほど答弁いただいたように、ずっと町長の根底にあられる、その入りの方の話の他には、当然人口減少を食い止める移住定住施策、それからこの間の開会の挨拶の時にも産業政策、また産業振興、

令和4年第420回信濃町議会定例会3月会議会議録（4日目）

それと誘客これについては、また3つ目の質問でいたしますけど、そういった思いも先般は語っておられましたけど、まだまだ周りの世の中の状況が許さない面もありますので、なかなか難しいのかなど。地域コミュニティについてもずっと町長も語っていらっしゃいます。そういった中で、病院も当然最大の住民の皆さんの関心事になっておりますが、何回もここで質問しましたけど、やはり今制約が多い中で町長としてどのようにして住民の皆さんのお気持ちお考えを汲み取っているのかなど。当然個人的なつながりもお持ちでしょうし、後援会等もありますでしょうし、ただ幅広く住民の皆様と触れ合うことがなかなか難しい中で、Facebookもやられていると思うんですが、情報発信もしながらどのようにして住民の想いを政治家として汲まれていらっしゃるのか、その辺を出来る範囲で結構ですのでお聞かせください。

●議長（佐藤武雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 今佐藤議員が言われましたように、まさにこの2年間を過ぎているわけでありまして、このコロナの状況の中で様々な社会活動も含めて行動が制約・制限をされているというような状況でございます。私自身もそうなんですけど、こういう立場に立って様々な意見をお伺いするという面では十分な状況にはないということで、大変残念に思うわけでございます。これはある面、住民代表である議員さん方それぞれの立場もそうかなと思うわけでございますが、結局この行政を預かる立場として生の様々なご意見を伺うというのは、本当にある面で政治では生ものであるものですので、そういうことでは時々いろんなご意見を拝見・拝聴しながら進めるということは私自身も大原則として持っているわけでありまして、そのことがなかなかできない状況にある。例えば町政懇談会にしても、それぞれの地区の皆さんからこういう時期だから取りやめさせていただきたいということで、文書をもってそのやり取りをするというような状況になっているわけでございます。私は本当に人間の社会の中でまさに、人間でありますからお互いにぬくもりを感じつつ目配りも見ながら対面で会話をし、そしてまたいろいろなご相談も含めてさせていただくというのが、一番大事なことかなと思っておりますが、そういう面では早くコロナが収まってそういう状況になればいいなというのは切に思っているところでございます。

●議長（佐藤武雄） 佐藤議員。

◆6番（佐藤博一） 町長と同じ気持ちで我々も議員活動をするにあたり非常に制約・制限があると感じながら、住民の方と接してはおります。そういった中で提案ではございますが、普段政治という面では町長は町長という立場で、あくまでも職員と接しているわけでありまして、外へ向かって住民と接するときは当然政治家の顔にもなりますし、町長の顔でも接していると思っております。大事な役場を運営していくにあたり、この100人くらいの職員が今非常に大事な町長の情報収集の、各家から役場へ通ってくるわけで

令和4年第420回信濃町議会定例会3月会議会議録（4日目）

す。そうすると職員が近隣のおじいちゃんおばあちゃん、お父さんお母さん、子どもから聞いたこと等がまた重要な情報になると思うんです。別に職員に命令するような話ではありませんが、やはりそれだけ日頃から町長が、職員もまた皆さん個々に信濃町人でない方もおりますが、やはり重要な職員であり住民であります。そういった職員の皆さんからの意見、情報等も聞きながら運営にしていればと思います。それで通告に書きました過去3年での進捗状況云々とありますが、先ほどの町長の答弁の中に連続しているものであると、という答弁もいただきましたので、私なりに感じたことはやはりどちらかというと、ほほうまく達成というかこれは職員にいい命令系統を通じて指示を出しながら、さらに職員からいい事業なり結果が上がってきている、これはまさに町長だけのものではなく、職員の力無くして成り立っていないなということで、私は今非常にうまく動いているなと感じたということで、次の質問に移ります。2番目の質問ですが、町内の危機管理、特にその中で空き家に対してのことなんですが、まず空き家は空き家でも、持ち主不在の物件ですね。まず税務課長にお聞きしますけれども、持ち主の不在物件というのはありますか。

●議長（佐藤武雄） 高橋税務会計課長。

■税務会計課長（高橋 徹） 持ち主の方が亡くなられたりして相続をそのままされているような場合ですと、次の方に引き継ぐことが出来るんですけど、そういうことがされていなくて実際課税はしていますけれども未収金となっている物件はあります。

●議長（佐藤武雄） 佐藤議員。

◆6番（佐藤博一） お亡くなりになられて相続をされていない、それはうっかりされていないのか、または相続を放棄されたかどちらかだと思うんですけども、そういった数は把握されていますか、どのくらい件数があるか。また数とともにそれが相続されていたりどなたかが管理されているとすれば当然、税収入に繋がってくるものと思われるのですが、もしそれが不在物件でなかった場合の税が分かるものがあるかどうか、金額と件数をお教えてください。

●議長（佐藤武雄） 高橋税務会計課長。

■税務会計課長（高橋 徹） 不在物件につきましてですが、登記簿でありますとか、戸籍等によって調査をしております。そういった中で令和3年度までですが今現在までで調査してちゃんと分かっているのが、個人または法人を合わせまして43件ございます。これらにつきましては、普通に課税をする中では約100万円ほどのものとなるんですけども、実際は未収金というような形になります。

令和4年第420回信濃町議会定例会3月会議会議録（4日目）

●議長（佐藤武雄） 佐藤議員。

◆6番（佐藤博一） 今、答弁の中に調査して43件ということは、当然これ不能欠損に至るまでのプロセスがあつて、調査をした結果ではないと数が上がらないということでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 高橋税務会計課長。

■税務会計課長（高橋 徹） 調査自体は戸籍または登記簿を調べますので、かなり時間がかかります。その中ではっきり分かっているのが43件ということになります。

●議長（佐藤武雄） 佐藤議員。

◆6番（佐藤博一） どちらかといふとこの質問をする前に、町の収入を少しでも増やすには何かネタがないかと考えていたところ、こういったものも、もう1桁くらい上の金額が出てこないかなと期待したんですが、特に相続放棄ですね、そういったものがこれからまだまだ起きるのではないかなという懸念がありまして、さらに町の収入をどうやって上げていくのかなといふところと、これはただうちの町だけで考えている話ではなくて、県や国なりに相談していかなければいけないことかなと感じた次第で、今日ここは税務課長も多分お聞きした答弁止まりだといふことは私も想定しておりました。それで管理面で建設水道課長にお伺いしますけれども、先般ある事業者様の建物が倒壊され、そういった事故が起きました。他にもこの冬、小さな小屋が潰れたとか様々な情報は聞いておりますけれども、怪我をされたとか命とかそういったことに至らなくて安堵しているところでありまして。実際この冬、私のところに雪下ろしを行っていない物件で先ほどの関連する相続が放棄された物件で、その雪が1メートル50以上になって、近隣にかなり危険を及ぼすのではないかと民生委員さんからの相談がありまして、現地確認はしてみたんですけれども、実際この家屋は鉄骨なものですから倒壊はしないと思うんですが、雪の落下は相当な危険があるなど。こういったことの管理の話は建設水道課の方ではどのように把握していますでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 海口建設水道課長。

■建設水道課長（海口泰幸） はい、佐藤議員のご質問の関係ですけれども、こちらの方でそういった不在等々の空き家の関係なんですけれども、建設課の方で把握しております数なんです、これにつきましては過去において調査した関係で、これ28年にやった調査ですので現在と比較しますと当然増減があると思うんですけれども、町内に277件ほどの空き家が存在しているというふうに、この段階においての調査で建設水道課の方では確認しております。先ほど税務の方でもお話があったんですけれども、それに基

令和4年第420回信濃町議会定例会3月会議会議録（4日目）

づいて今後どういうふうにしていったらいいかという形の中で、アンケート調査も実施しましたら、回収率が46.6パーセントという、半分ぐらいしか実際には返ってこなかったんですけども、その中の調査の段階で、細かいものについては出来ませんので、持ち主不在者がどのくらいいるかというのは把握できていませんので、不在者地主というんですか、所有者というのは把握できていないんですけども、あと実際に先ほどありました雪等々が乗っているそういった部分につきましてはパトロール等々をする中で、前日他の議員さんにもお話ししましたが、地域の住民の方々から情報を寄せていただく部分と、こちらの職員でパトロール等々をする中でそういった危険家屋等々につきましては、わかる範囲でそういった部分についてご通知を申し上げたりする中で対応をとらせていただいているような状況でございます。以上です。

●議長（佐藤武雄） 佐藤議員。

◆6番（佐藤博一） 日々パトロール等をされながら持ち主がはっきりしている場合にはそのように通知で済んでおると理解しました。先ほどから何回か申し上げている相続放棄をして、今、宙ぶらりんの状態の建物等の、この冬に限って言えば雪下ろしについては、相続放棄された方がもし町内にいればそういった方が管理する義務は、法的な問題等も含めてどうでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 海口建設水道課長。

■建設水道課長（海口泰幸） よく、相続放棄をしたのでこの建物について私は関係ないんですとおっしゃられる方も中にはいらっしゃるんですけども、この部分につきましては、管理責任が絡んでくるわけですけども、住宅ですと建物全般の管理責任につきましては、民法717条の項目がありまして、土地の工作物の設置または保存に瑕疵があることによって、他人に損害を生じたときはその工作物の占有者、それから被害につきましては、損害を賠償する、責任を負うということで、あと占有者がそれなりの措置をしている場合につきましては所有者がそれを賠償しなければならないというようなことがあるんですけども、不動産の管理責任ということになるかと思えます。あと併せまして不動産の管理に関しまして、民法940条という項目がございまして、そちらによりますと先ほど申し上げましたように、相続放棄した場合がこちらに該当してくると思うんですけども、相続放棄をした者につきましては、その放棄によって相続人となった者が相続財産の管理を始めることが出来るまで、自己の財産におけるのと同一の注意を払って財産の管理を継続していかなければならないということでございますので、要は相続確定をしない限りは相続放棄をした場合であってもその責務から逃れることは出来ないということでございますので、繰り返しになって恐縮ですが相続放棄をしたからということにおいて、屋根の雪下ろしですとかそういったことについての責務から免除されるわけではございませんので、そういったことにつきましては、相続放棄をした

令和4年第420回信濃町議会定例会3月会議会議録（4日目）

方々につきましても管理の方を慎重にやっていただきたいと建設課の方では思っております。以上です。

●議長（佐藤武雄） 佐藤議員。

◆6番（佐藤博一） はい、丁寧な説明でした。それで最後、建設課では思っておりますというふうにおっしゃったんですが、現実問題地域住民の方や民生委員さんから当然相談が我々に寄せられて、民生委員さんは役場にも相談したとは言っていました。現実問題その放棄された方に役場としてアクションを起こすことは可能ですか。民法を持ち出してやることはなかなか難しいと思うんですが、先ほどの持ち主がいてそこに書面を送っているのと同等のような、何か行動やアクションを起こすことは可能でしょうか。

●議長（佐藤武雄） 海口建設水道課長。

■建設水道課長（海口泰幸） 分かる限りにおきましては、先ほど申し上げたことと重複しますが、書面等々でお送りすることは可能だと思います。ただ実際に住所等々が不明な方もいらっしゃいますので、そういった部分につきましては戸籍等々を調べるとか次の段階に入るとの手続き的なものになりますので、そこまで踏み込んですべてを完結させるかどうかというのは今後の課題だと思いますので、その部分については直ぐにできるとは明言できませんのでよろしく申し上げます。

●議長（佐藤武雄） 佐藤議員。

◆6番（佐藤博一） ある程度持ち主不明とか年数が経ってだいぶ老朽化している建物だと、どちらかという放っておくしかないのかなというふうには感じるもので、あります。では3つ目の質問に移りますがよろしく申し上げます。観光政策について、毎回でもないですが結構観光のことを申し上げております。当然これから令和4年度予算案を審査していくわけですが、この間説明を聞いた限りでは観光・イベントそういった町の活性化、賑わいを目指した上での予算組みはされているふうには感じました。これは昨年来、旧来の策を打つに留まっているのかなというふうに感じております。実は県民手帳に長野県のふるさとの行事というのが後ろの方に資料が出ていまして、数えたらざっと700件くらいあるんですよ。その中に一茶まつり、野尻湖花火大会、道の駅のもろこし祭りに始まり最後一茶忌に至るまで8件掲載されていました。ということは長野県内で700件も様々なイベントなりがある中で、8件が別に少ないと言っているわけではありません。非常に数多ありすぎるくらいある県内において、いかに埋もれないように目立たせてこれを集客に繋げていくのが、やはり観光事業者さんなりへの1つの政策だと思うんですが。そうすると例年どおりの、予算を否定するわけではないんですが、今つらつら予算書には出ていました。そういった中で産業観光課長として、各業者さん

令和4年第420回信濃町議会定例会3月会議会議録（4日目）

と話し合い等もしていると思うんですが、何か新しい策というのは考えておりますでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） 新しいものというのは今のところ考えてはないんですけども、新年度のコロナの地方創生臨時交付金等活用する中で昨年の引き続きの事業であるとか、コロナ後も含めて繋がるような事業が出来ればいいなと考えております。以上です。

●議長（佐藤武雄） 佐藤議員。

◆6番（佐藤博一） 実際今、一番先ほどから申し上げているコロナというところで、今やりづらいところだと思います。町長がおっしゃっているような、これもまさに財源ありきのところで、地方創生臨時交付金等があればこそのものでありますし、ここにあまり一財を投入して効果がなければ非常に持ち出しが多いものになってきます。今、新しい策はないでしょうかと申し上げたのは、新たな何か人を集めることをやればいっていいものでもなく、先ほど700ぐらいの様々なイベント等がある中で、信濃町を目立たせる1つの策を当然ネット配信もしていますでしょうし、印刷物等でもやっているでしょうし、先般のテレビで野尻湖のサウナが出てきました。これ家で見ていて感動したんですけども、今全国でサウナの聖地と言われているくらいだと。やはりこうなってくると先ほどの700の中の8件よりも、聖地という言葉が皆さんがもう付けてくれていますし、これはマスコミなのかそこに出てきたスターなのか解りませんが、やはりそういった目立たせることを、町のお金を使わずしても出来るものは結構あるなど。となるとこれは頭で考えているだけでなく、であればサウナを産業観光課として話を聞きに行ってくるというのも手だと思うんですよ。物事って成功事例なり、うまくいったということは頭を下げて教えてくださいといけば、相手さんは嫌な顔はせずに教えてくれると思いますし、そういったことを町内で積み重ねながらいろんなところに聞きに行くと。だから役場から、ただただお金出すから何かイベントやってちょうだい時代ではなくて、住民の間に何か眠っているものがあると思っているんですが、まず今サウナ等これ非常にうまくいっていると思います。話を聞きに行くぐらいの度量は課長ございますか。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） 様々なメディア等で取り上げられていることは存じております。直接お話を伺ったことはないんですけども、そういうことも必要かというふうに考えます。

令和4年第420回信濃町議会定例会3月会議会議録（4日目）

●議長（佐藤武雄） 佐藤議員。

◆6番（佐藤博一） やはり役場の皆さんはの中で事務をとりながら、フィールドじゃないオフィスの中で、部署によってはフィールドで出てきますけれども、この中でパソコン叩いてそろばん勘定ではありませんが、そういったものは、非常に私はプロだと思っています。さらにそこを先ほどのサウナならサウナで話を聞きに行くというのは、今度相手さんは相手さんでそのプロでありますから、これはやはりプロとプロが一緒になりながら、それで様々なプロが町内にいるのを繋いでいくのが職員の皆さんなりの仕事かなというふうに思っております。それで、通告に書きました振興局、観光協会のその後はということですが、これがまさに2つの組織ともプロが集まっている集団だと思いますし、昨年9月に議会等で町の方にも要望書のような形で出てきたと思うんですが、その後の何か進展というのはあったんでしょうか。課長お願いします。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） 要望書等もいただいております。その中には補助金の一本化等のご要望もいただいたところではございますけれども、補助金につきましては別々の組織というようなこともございますので、なかなか一本化するということも出来ないというお話はさせていただいているところです。その後特にというようなことはございません。以上です。

●議長（佐藤武雄） 佐藤議員。

◆6番（佐藤博一） 補助金の一本化といったものも、考え方によっては50万円ずつ出したものを足して75万円とか減らすことは可能なものもあると思うんですよ。その後特にこの2つの団体がこの書面を出した以降、私の方に聞こえてきている範囲でも、どちらかという沈静化してしまったように感じております。町で音頭を取ってやっていく話でもないような、やはり相手さんのある話なので当事者同士ですし、これ会社が登記上違うから相手に任せている的なものでもなく、出している補助金自体が、相手さんが町からのお金で成り立っているというところを見ると、また年度が変わりましたらそういった面もその後どうなったんですかぐらいな話をしながら、やはりこの2つの組織を、前は私は予算等も一本化と強く思っていたんですが、まだまだよくお話を聞いたうえで、このコロナが終わった後のことも見据えながら、先ほどサウナの話もちょっと出しましたけれど、やはり産業観光課におかれては各事業者さんなりの意見をよく聞くという姿勢に今はスタンスで行動していただければなと思います。最後ちょっと簡単になりましたけれども、これで質問を終わります。

●議長（佐藤武雄） 以上で、佐藤博一議員の一般質問を終わります。この際申し上げます

令和4年第420回信濃町議会定例会3月会議会議録（4日目）

す。10時35分まで休憩いたします。

（終了 午前10時35分）